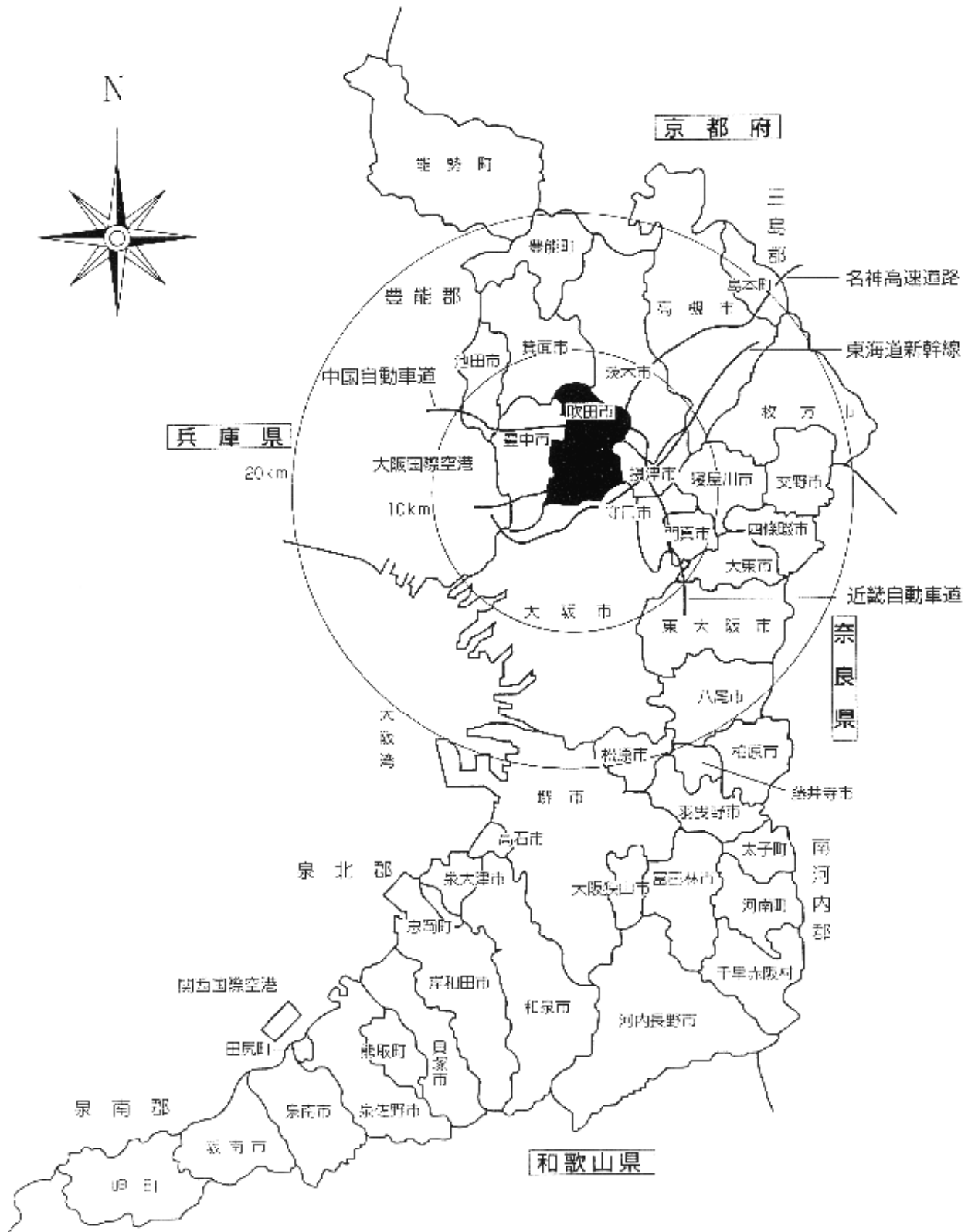


総 説 編

吹田市の位置



吹田市の概要

1 地 勢

吹田市は、大阪府の北部に位置し、南は神崎川を隔て大阪市に、北は箕面市・茨木市に、東は摂津市に、西は豊中市に隣接している。

千里ニュータウンを擁する市域北部は、樹枝状浸食谷の発達した標高20mから115mのなだらかな丘陵となっており、南部は安威川・神崎川・淀川をつくる標高10mほどの沖積低地である。気候は温暖で、面積は36.09km²である。

2 歴 史


吹田の地名は、「行基年譜」の天平13年記(741年)に「次田堀川」とあるのが初見で、「醍醐すきたのほりかわ雑事記」には、貞観7年(865年)に淳和天皇の皇子・基貞親王の領田として成立した吹田庄が、後に清住寺に寄進されたことが記されている。吹田がにぎわいをみせるようになるのは、延暦4年(785年)に三国川と呼ばれた神崎川と淀川を直結させる工事が行われて以後のことで、吹田は陸路・水路とも、西国と京都を結ぶ交通の要所となり、河港として発達し、荘園が設けられ、貴族の遊行の地ともなった。

明治9年(1876年)には大阪・京都間に官営鉄道が開通し、吹田と大阪は20分間の距離となり、続いて明治24年(1891年)、地下水が豊富で水運のよい吹田に、現アサヒビールが工場を開設、大正12年(1923年)には国鉄吹田操車場が操業を開始し、“ビールと操車場の町”と言われるようになった。大正10年(1921年)には、大阪市内と結ぶ北大阪電鉄(現在の阪急電鉄)も開通し、大阪市の商工業の発展に伴い、近郊住宅地として開けた。明治41年(1908年)に町制を敷いた吹田は、昭和15年(1940年)には隣接する豊津村、岸部村、ちさと千里村と合併し、人口6万3,181人の吹田市が誕生。戦後、昭和28年(1953年)には新田村のうち下新田と、昭和30年(1955年)には山田村と合併して現在の市域となり、これらの合併が千里ニュータウンや万博、大学用地として新しい時代の基礎となった。



市域変遷図

| | | |
|--------|----------------------|--------------|
| 市制施行 | 昭和15年(1940年)4月1日 | |
| 市役所の位置 | 東経 | 135° 31' 01" |
| | 北緯 | 34° 45' 34" |
| 面積 | 36.09km ² | |
| 広 ぼ う | 東西 | 6.3km |
| | 南北 | 9.6km |
| 海 抜 | 最高 | 115.7m |
| | 最低 | 1.5m |

 市制施行時の吹田市域
20.45km²

3 現 況

市制施行後80年を経て、現在吹田市の人口は約37万人で、大阪府内33市では6番目に人口の多い都市である。また、令和2年(2020年)4月1日に、中核市に移行した。

大阪市近郊の住宅都市としての吹田の発展は、大正時代の北大阪電鉄(現在の阪急電鉄)の開通から始まり、昭和30年代の千里ニュータウンの建設・入居によって決定的となった。千里ニュータウンの完成・入居と、それに続く周辺住宅開発によって、千里ニュータウン入居前の昭和36年(1961年)の人口、約12万8,000人が、20年後の昭和56年(1981年)には約33万3,000人と急増した。

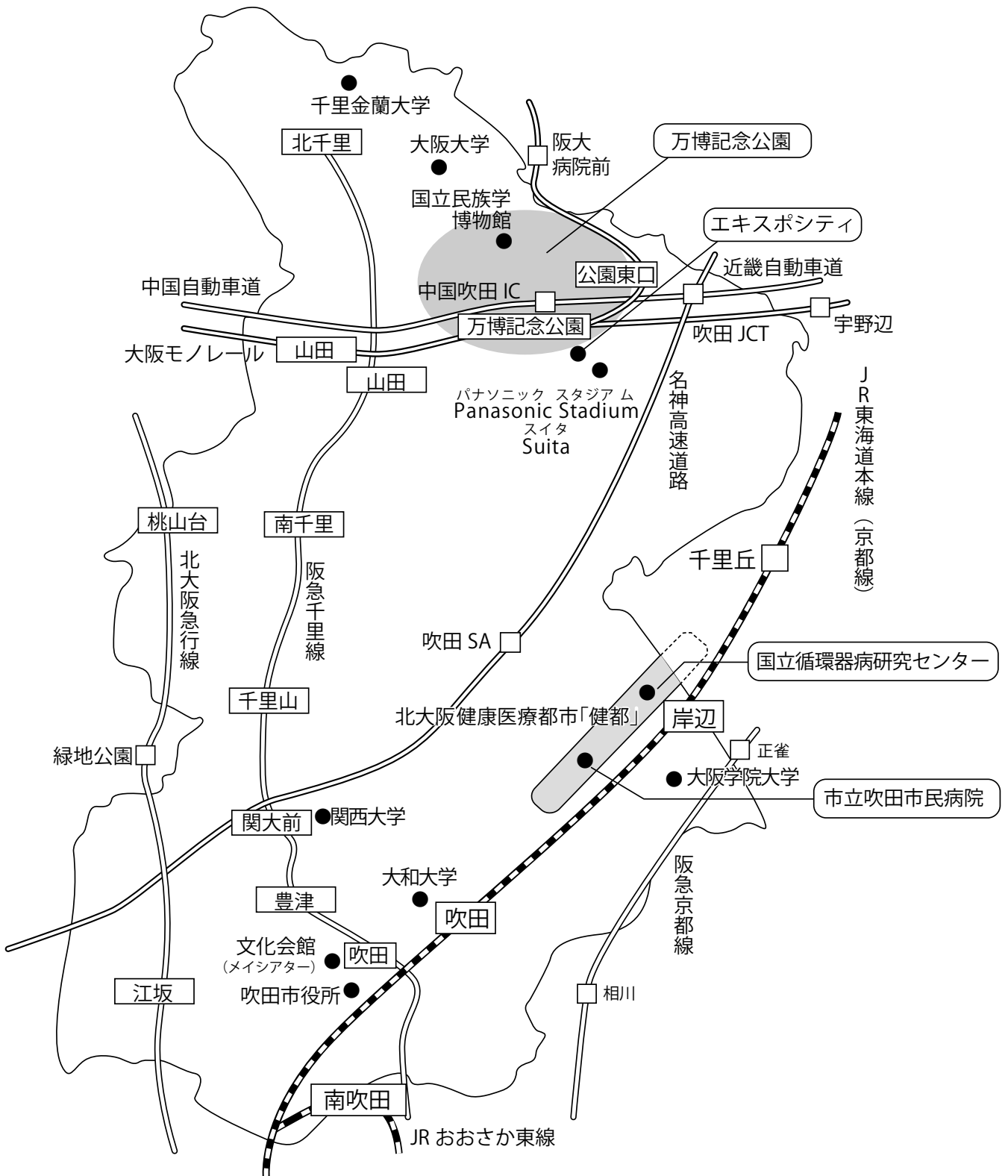
人口の増加はその後も続いたが、徐々に伸び率を低下させ、昭和63年(1988年)からは市制施行以来初めての減少に転じた。その後も僅かずつ減少を続けたが、現在では増加傾向にある。一方、世帯数は増えており、世帯規模が小さくなる傾向が続いている。人口構成では、平成23年(2011年)に65歳以上の人口が総人口の20%を超え、市南部地域を始め、入居後58年を迎えた千里ニュータウン地域でも高齢化が進んでいる。

高度経済成長期とそれに続く時代は、人口急増とともに、これに対する都市基盤の整備や、現在の住宅文化都市としての基礎がつくられた時代である。昭和45年(1970年)に開かれた万国博は、約260haの広大な跡地を残し、ここに国立民族学博物館を始めとする多くの文化施設が建設された。また、その周辺地域には、大阪大学が誘致されたのを始め、その後、バイオサイエンス関係の研究施設、大阪大学医学部附属病院などが建設され、市北部地域での学術研究施設の集積が進んでいる。さらに、最近では、万博公園南側エリアに大型複合施設(EXPOCITY)やガンバ大阪がホームグラウンドとする市立吹田サッカースタジアムが開設し、日本有数の集客エリアともなっている。

万国博の開催は、新御堂筋、大阪市営地下鉄(現在の大阪メトロ)、北大阪急行電鉄といった交通網の整備も促し、市の区画整理事業が実施されたこともあって、大阪市内、新幹線新大阪駅と直結した江坂地域では商業・業務施設の集積が進み、大阪市に隣接したまちとして発展している。

岸部地域では、吹田操車場跡地に市民病院が平成30年(2018年)12月に、国立循環器病研究センターが令和元年(2019年)7月1日にそれぞれ移転建て替えしたほか、その周辺には医療関連企業などを誘致するとともに、環境に関する先進的な取組も取り入れるなど、「健康・医療のまちづくり」基本方針に基づく北大阪健康医療都市(健都)の整備が進められている。また、南吹田地域では、平成31年(2019年)3月16日、JRおおさか東線北区間の開業に伴い、南吹田駅が開設され、本市の南の新しい玄関口として期待が寄せられている。

4 市内の主な交通機関



都市宣言

1 非核平和都市宣言

(1) 宣言文

真の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかるに、近年、世界において軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和に深刻な脅威をもたらしていることは、全人類のひとしく憂えるところである。

わが国は、世界最初の核被爆国として、また、平和憲法の精神からも再びあの広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

吹田市は、日本国憲法にうたわれている平和の理念を基調に、市民の健康で文化的な生活の向上をめざし“すこやかで 心ふれあう 文化のまち”づくりをすすめており、平和なくしては、その実現はありえない。

よって、吹田市は、平和を希求する市民の総意のもとに、わが国の非核三原則が完全に実施されることを願うとともに、核兵器の廃絶を訴え、ここに非核平和都市であることを宣言する。

(2) 宣言年月日 昭和58年(1983年)8月1日

2 健康づくり都市宣言

(1) 宣言文

健康は、心ゆたかで活力に満ち充実した生活を営むための、最も重要な基礎をなす市民共通の強いねがいであり、本市がめざす“すこやかで 心ふれあう 文化のまち”づくりの基本理念でもある。

本市は、この理念達成のため、市民の理解と参加を得て、健康づくり都市の実現に向けてとりくむことをここに宣言する。

(2) 宣言年月日 昭和58年(1983年)10月11日

3 安心安全の都市づくり宣言

(1) 宣言文

私たちのまちは、人々が互いに助け合い、思いやりながら共に生き、将来を担う子どもたちが、すこやかに育つことのできる安心安全なまちでなければなりません。

安心してくらすことのできる安全なまち、いつまでも誇りをもって住み続けたいと思えるまちは市民みんなの願いです。

こうした思いをもとに、吹田市は、市民一人ひとりのつながりの輪を広げ、市の将来像である“人が輝き、感動あふれる美しい都市 すいた”を目指し、市民、企業、行政が力を合わせて「安心安全の都市づくり」に取り組むことをここに宣言します。

(2) 宣言年月日 平成20年(2008年)3月14日

友好交流都市

昭和57年(1982年)にスリランカ・モラトワ市と、平成元年(1989年)には、オーストラリア・バンクスタウン市(現カンタベリバンクスタウン市)と友好都市提携を結び、国際相互理解の増進と国際友好親善の促進を図っている。

国内では、新潟県妙高市、福井県若狭町、大阪府能勢町、滋賀県高島市、高知県土佐町、兵庫県香美町とフレンドシップ協定を結び、文化・スポーツを中心に交流を行っている。また、災害時における相互応援協定も結び、大規模な災害などが発生し応援が必要と判断される場合、災害避難者用の応援物資を提供するとともに、人員の派遣を行うなど、相互に支援することとしている。

1 国際交流都市

(1) スリランカ／モラトワ市

コロンボの南20kmに位置するスリランカ第3の都市である。塗装、機械、縫製などの産業が盛んで、伝統家具の産地としても有名である。昭和57年(1982年)7月20日調印、人口約18万人、面積16km²。

(2) オーストラリア／バンクスタウン市(平成28年(2016年)5月12日、合併により現在はカンタベリバンクスタウン市)

カンタベリバンクスタウン市は、シドニーの南西20kmに位置する緑豊かな自然に満たされた住宅、文化、商業都市である。平成12年(2000年)のオリンピックでは自転車競技が開催された。平成元年(1989年)3月9日調印。人口約35万人、面積110km²。

2 国内交流都市

(1) 新潟県／妙高市

妙高戸隠連山国立公園に属する妙高山麓と高田平野からなり、雄大な自然の景観の中、温泉やスキー場が有名な都市である。平成14年(2002年)8月28日に締結、人口約3万2,000人、面積約445km²。

(2) 福井県／若狭町

若狭湾国定公園に指定された若狭湾、三方五湖や三十三間山など美しい自然に囲まれた都市である。平成16年(2004年)11月13日に締結、人口約1万5,000人、面積約178km²。

(3) 大阪府／能勢町

谷間に広がる田園、山の斜面に開かれた棚田、特産品である銀寄の栗林など生物多様性を育む緑豊かな都市である。平成17年(2005年)8月29日に締結、人口約1万人、面積約99km²。

(4) 滋賀県／高島市

滋賀県の北西部に位置し、琵琶湖と比良山系に囲まれ、夏は水泳、冬はスキーが楽しめる都市である。平成17年(2005年)9月1日に締結、人口約4万8,000人、面積約693km²。

(5) 高知県／土佐町

三方を1千m級の山々に囲まれた山岳景観や吉野川へ注ぐ溪流景観が楽しめる自然豊かな都市である。平成19年(2007年)12月7日に締結、人口約4,000人、面積約212km²。

(6) 兵庫県／香美町

氷ノ山後山那岐山国定公園、山陰海岸国立公園などの山や海と、その間を矢田川が流れる自然豊かな都市である。平成20年(2008年)11月12日に締結、人口約1万7,000人、面積約369km²。

大学のあるまちづくり

吹田市と市内の大学・研究機関（大阪大学、関西大学、大阪学院大学、千里金蘭大学、大和大学、国立民族学博物館）が、歴史的・文化的資源の活用及び知的・人的資源の交流を図ることにより、文化、まちづくり等の分野において、双方の発展と充実に寄与し、地域連携を積極的に推進することを目的として、包括協定を結んでいる。

人口の動き

1 人口の推移

(行政区域内人口は各年3月31日現在)

| 年次 | 面積 (km ²) | 世帯数 | 人 口 | | | 人口密 度(1km ² 当たり) | 摘 要 |
|------------|--------------------------|---------|-----------|----------|----------|-----------------------------------|---------|
| | | | 総数 (人) | 男 (人) | 女 (人) | | |
| 昭和15(1940) | 20.45 | 14,326 | 66,094 | 33,651 | 32,443 | 3,232 | 第5回国勢調査 |
| 〃 22(1947) | 〃 | 16,907 | 72,197 | 36,211 | 35,986 | 3,530 | 6 〃 |
| 〃 25(1950) | 〃 | 17,415 | 78,415 | 39,137 | 39,278 | 3,834 | 7 〃 |
| 〃 30(1955) | 21.50 | 19,573 | 88,458 | 44,262 | 44,196 | 4,114 | 8 〃 |
| 〃 35(1960) | 36.60 | 29,080 | 116,765 | 58,993 | 57,772 | 3,190 | 9 〃 |
| 〃 40(1965) | 〃 | 55,298 | 196,779 | 101,366 | 95,413 | 5,376 | 10 〃 |
| 〃 45(1970) | 〃 | 75,944 | 259,619 | 133,163 | 126,456 | 7,093 | 11 〃 |
| 〃 50(1975) | 〃 | 93,171 | 300,956 | 153,357 | 147,599 | 8,223 | 12 〃 |
| 〃 55(1980) | 〃 | 114,692 | 332,418 | 167,749 | 164,669 | 9,082 | 13 〃 |
| 〃 60(1985) | 〃 | 121,359 | 348,948 | 174,696 | 174,252 | 9,534 | 14 〃 |
| 平成2(1990) | 〃 | 125,144 | 345,206 | 172,111 | 173,095 | 9,432 | 15 〃 |
| 〃 7(1995) | 36.11 | 132,499 | 342,760 | 170,177 | 172,583 | 9,492 | 16 〃 |
| 〃 12(2000) | 〃 | 141,846 | 347,929 | 171,913 | 176,016 | 9,635 | 17 〃 |
| 〃 17(2005) | 〃 | 149,525 | 353,885 | 173,154 | 180,731 | 9,800 | 18 〃 |
| 〃 22(2010) | 〃 | 154,702 | 355,798 | 171,769 | 184,029 | 9,853 | 19 〃 |
| 〃 27(2015) | 36.09 | 168,473 | 374,468 | 180,669 | 193,799 | 10,376 | 20 〃 |
| 〃 28(2016) | 〃 | 168,830 | 367,510 | 176,663 | 190,847 | 10,183 | 行政区域内人口 |
| 〃 29(2017) | 〃 | 168,824 | 369,522 | 177,442 | 192,080 | 10,239 | 〃 |
| 〃 30(2018) | 〃 | 170,244 | 370,072 | 177,356 | 192,716 | 10,254 | 〃 |
| 令和元(2019) | 〃 | 171,849 | 371,030 | 177,814 | 193,216 | 10,281 | 〃 |
| 〃 2(2020) | 〃 | 174,222 | 373,978 | 179,114 | 194,864 | 10,362 | 〃 |

(注) 市域面積は、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。

2 人口動態

(単位：人)

| 年 度 | 人口増減 | 自然動態 | | | 社会動態 | | |
|------------|-------|------|-------|-------|-------|-------------------|-------------------|
| | | 増減数 | 出 生 | 死 亡 | 増減数 | 転 入 | 転 出 |
| 平成27(2015) | 4,660 | 724 | 3,493 | 2,769 | 3,936 | 24,398 (2,831) | 20,462 (2,831) |
| 〃 28(2016) | 2,012 | 602 | 3,462 | 2,860 | 1,410 | 21,511 (2,393) | 20,101 (2,393) |
| 〃 29(2017) | 550 | 276 | 3,235 | 2,959 | 274 | 20,614 (2,534) | 20,340 (2,534) |
| 〃 30(2018) | 958 | 188 | 3,173 | 2,985 | 770 | 22,408 (2,385) | 21,638 (2,385) |
| 令和元(2019) | 2,948 | △72 | 3,004 | 3,076 | 3,020 | 23,714 (2,548) | 20,694 (2,548) |

- (注) 1 転入には、転出取消、職権記載等を含む。
 2 転出には、職権消除等を含む。
 3 転入、転出には市内転居の一部を含む。() で表示。

3 昼間の人口

(各年国勢調査 単位：人)

| 年 次 | 夜間人口 | 流入人口 | 流出人口 | 昼間人口 | 差引増減 | 昼間人口指数 (夜間人口=1) |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|--------------------|
| 昭和55 (1980) | 332,418 | 81,363 | 106,499 | 306,923 | △25,136 | 0.92 |
| 〃 60 (1985) | 348,948 | 92,930 | 118,558 | 322,980 | △25,628 | 0.93 |
| 平成 2 (1990) | 345,206 | 111,697 | 124,781 | 330,808 | △13,084 | 0.96 |
| 〃 7 (1995) | 341,361 | 118,925 | 124,165 | 335,886 | △ 5,240 | 0.98 |
| 〃 12 (2000) | 347,400 | 113,134 | 114,588 | 345,909 | △ 1,454 | 1.00 |
| 〃 17 (2005) | 351,480 | 104,703 | 112,964 | 343,219 | △ 8,261 | 0.98 |
| 〃 22 (2010) | 355,798 | 100,988 | 112,061 | 350,816 | △11,073 | 0.90 |
| 〃 27 (2015) | 374,468 | 99,695 | 111,426 | 362,737 | △11,731 | 0.97 |

(注) 流入、流出人口は、年齢等不詳を除いたので、夜間人口と内訳は一致しない。

4 流出先別流出人口

(単位：人)

| 流出先 区分 | 平成22年(2010年) | | | 平成27年(2015年) | | |
|-----------|--------------|--------|--------|--------------|--------|--------|
| | 総数 | 就業者 | 通学者 | 総数 | 就業者 | 通学者 |
| 府内へ | 92,401 | 82,523 | 9,878 | 95,410 | 84,920 | 10,490 |
| 大 阪 市 | 57,557 | 53,980 | 3,577 | 59,208 | 55,504 | 3,704 |
| 豊 中 市 | 8,584 | 7,179 | 1,405 | 9,118 | 7,549 | 1,569 |
| 箕 面 市 | 2,995 | 2,498 | 497 | 2,889 | 2,389 | 500 |
| 茨 木 市 | 7,105 | 5,320 | 1,785 | 7,319 | 5,471 | 1,848 |
| 摂 津 市 | 4,513 | 3,940 | 573 | 4,486 | 3,939 | 547 |
| そ の 他 | 11,647 | 9,606 | 2,041 | 12,390 | 10,068 | 2,322 |
| 他府県へ | 13,569 | 10,560 | 3,009 | 16,015 | 12,602 | 3,413 |
| 兵 庫 県 | 7,217 | 6,010 | 1,207 | 7,562 | 6,279 | 1,283 |
| 京 都 府 | 4,330 | 2,950 | 1,380 | 4,870 | 3,341 | 1,529 |
| 奈 良 県 | 461 | 285 | 176 | 575 | 382 | 193 |
| 和 歌 山 県 | 88 | 73 | 15 | 125 | 100 | 25 |
| 滋 賀 県 | 649 | 473 | 176 | 793 | 564 | 229 |
| 三 重 県 | 41 | 39 | 2 | 61 | 57 | 4 |
| そ の 他 | 783 | 730 | 53 | 2,029 | 1,879 | 150 |
| 計 | 105,970 | 93,083 | 12,887 | 111,425 | 97,522 | 13,903 |

(注) 流出先別流出人口は、流出人口のうち15歳以上就業者及び通学者を対象としている。

5 産業別就業人口

(各年国勢調査)

| 区分 | | 区別 | 平成17年(2005年) | | 平成22年(2010年) | | 平成27年(2015年) | |
|-------|-----------------|---------|--------------|----------|--------------|----------|--------------|----------|
| | | | 就業人口 (人) | 率 (%) | 就業人口 (人) | 率 (%) | 就業人口 (人) | 率 (%) |
| 第一次産業 | 農業 | | 269 | 0.2 | 307 | 0.2 | 305 | 0.2 |
| | 林業 | | 4 | 0.0 | 7 | 0.0 | 7 | 0.0 |
| | 漁業 | | 1 | 0.0 | 3 | 0.0 | 5 | 0.0 |
| | 計 | | 274 | 0.2 | 317 | 0.2 | 317 | 0.2 |
| 第二次産業 | 鉱業 | | 4 | 0.0 | 1 | 0.0 | 4 | 0.0 |
| | 建設業 | | 11,136 | 6.8 | 9,517 | 6.0 | 9,421 | 5.7 |
| | 製造業 | | 19,279 | 11.8 | 18,534 | 11.7 | 21,439 | 13.0 |
| | 計 | | 30,419 | 18.8 | 28,052 | 17.7 | 30,864 | 18.7 |
| 第三次産業 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | | 553 | 0.3 | 647 | 0.4 | 675 | 0.4 |
| | 情報通信業 | | 6,077 | 3.7 | 6,373 | 4.0 | 6,877 | 4.2 |
| | 運輸・郵便業 | | 8,144 | 5.0 | 8,333 | 5.2 | 8,197 | 5.0 |
| | 卸売・小売業 | | 37,771 | 23.0 | 31,896 | 20.1 | 28,905 | 17.5 |
| | 金融・保険業 | | 6,432 | 3.9 | 6,428 | 4.0 | 6,559 | 4.0 |
| | 不動産・物品賃貸業 | | 4,558 | 2.8 | 5,433 | 3.4 | 5,865 | 3.5 |
| | 学術研究、専門・技術サービス業 | … | … | … | 7,182 | 4.5 | 7,520 | 4.6 |
| | 宿泊・飲食サービス業 | | 8,875 | 5.4 | 8,993 | 5.7 | 8,922 | 5.4 |
| | 生活関連サービス・娯楽業 | … | … | … | 5,674 | 3.6 | 5,350 | 3.2 |
| | 教育・学習支援業 | | 8,799 | 5.4 | 9,023 | 5.7 | 9,547 | 5.8 |
| | 医療・福祉 | | 14,274 | 8.7 | 15,770 | 9.9 | 18,518 | 11.2 |
| | 複合サービス事業 | | 1,402 | 0.9 | 545 | 0.3 | 725 | 0.4 |
| | サービス業 | | 27,976 | 17.1 | 10,015 | 6.3 | 10,706 | 6.5 |
| | 公務 | | 3,915 | 2.4 | 3,487 | 2.2 | 3,825 | 2.3 |
| | 計 | | 128,776 | 78.5 | 119,799 | 75.3 | 122,191 | 74.0 |
| 分類不能 | | 4,477 | 2.7 | 10,879 | 6.8 | 11,782 | 7.1 | |
| 総数 | | 163,946 | 100.0 | 159,047 | 100.0 | 165,154 | 100.0 | |

(注) 産業分類の変更に伴い、旧産業分類と接続していない産業については、「…」としている。

府内各市の概要

| 市名 | 人口(人) | | 議員定数(人) | 面積(km ²) | 市制施行年月日 |
|------|-----------------------|------------------|---------|----------------------|--------------------|
| | 平成27年(2015年)10月1日国勢調査 | 令和2年(2020年)3月末現在 | | | |
| 大阪 | 2,691,185 | 2,733,988 | 83(96) | 225.30 | 明治22年(1889年)4月1日 |
| 吹田 | 374,468 | 373,978 | 36(46) | 36.09 | 昭和15年(1940年)4月1日 |
| 豊中 | 395,479 | 408,518 | 34(46) | 36.60 | 〃 11年(1936年)10月15日 |
| 高槻 | 351,829 | 351,019 | 34(46) | 105.29 | 〃 18年(1943年)1月1日 |
| 茨木 | 280,033 | 282,705 | 28(38) | 76.49 | 〃 23年(1948年)1月1日 |
| 箕面 | 133,411 | 135,450 | 23(34) | 47.90 | 〃 31年(1956年)12月1日 |
| 池田 | 103,069 | 103,600 | 22(34) | 22.14 | 〃 14年(1939年)4月29日 |
| 摂津 | 85,007 | 86,584 | 19(30) | 14.87 | 〃 41年(1966年)11月1日 |
| 枚方 | 404,152 | 400,038 | 32(46) | 65.12 | 〃 22年(1947年)8月1日 |
| 寝屋川 | 237,518 | 231,189 | 24(38) | 24.73 | 〃 26年(1951年)5月3日 |
| 守口 | 143,042 | 143,785 | 22(34) | 12.71 | 〃 21年(1946年)11月1日 |
| 門真 | 123,576 | 121,321 | 20(34) | 12.30 | 〃 38年(1963年)8月1日 |
| 大東 | 123,217 | 120,138 | 17(34) | 18.27 | 〃 31年(1956年)4月1日 |
| 交野 | 76,435 | 77,588 | 15(30) | 25.55 | 〃 46年(1971年)11月3日 |
| 四條畷 | 56,075 | 55,637 | 12(30) | 18.69 | 〃 45年(1970年)7月1日 |
| 東大阪 | 502,784 | 487,772 | 38(56) | 61.78 | 〃 42年(1967年)2月1日 |
| 八尾 | 268,800 | 265,908 | 28(38) | 41.72 | 〃 23年(1948年)4月1日 |
| 松原 | 120,750 | 119,225 | 18(34) | 16.66 | 〃 30年(1955年)2月1日 |
| 羽曳野 | 112,683 | 110,742 | 18(34) | 26.44 | 〃 34年(1959年)1月15日 |
| 富田林 | 113,984 | 110,698 | 18(34) | 39.72 | 〃 25年(1950年)4月1日 |
| 河内長野 | 106,987 | 104,031 | 18(34) | 109.63 | 〃 29年(1954年)4月1日 |
| 柏原 | 71,112 | 68,644 | 17(30) | 25.33 | 〃 33年(1958年)10月1日 |
| 藤井寺 | 65,438 | 64,384 | 14(30) | 8.89 | 〃 41年(1966年)11月1日 |
| 大阪狭山 | 57,792 | 58,691 | 15(30) | 11.92 | 〃 62年(1987年)10月1日 |

| 市名 | 人口(人) | | 議員定数(人) | 面積(km ²) | 市制施行年月日 |
|-----|-----------------------|------------------|----------------|----------------------|-------------------|
| | 平成27年(2015年)10月1日国勢調査 | 令和2年(2020年)3月末現在 | | | |
| 堺 | 839,310 | 833,559 | 48(56) | 149.82 | 明治22年(1889年)4月1日 |
| 岸和田 | 194,911 | 193,615 | 24(38) | 72.72 | 大正11年(1922年)11月1日 |
| 和泉 | 186,109 | 185,790 | 24(34) | 84.98 | 昭和31年(1956年)9月1日 |
| 泉佐野 | 100,966 | 100,287 | 18(30) | 56.51 | 〃 23年(1948年)4月1日 |
| 貝塚 | 88,694 | 85,334 | 18(30) | 43.93 | 〃 18年(1943年)5月1日 |
| 泉大津 | 75,897 | 74,421 | 16(30) | 13.67 | 〃 17年(1942年)4月1日 |
| 高石 | 56,529 | 57,617 | 16(30) | 11.30 | 〃 41年(1966年)11月1日 |
| 泉南 | 62,438 | 61,457 | 15(30) | 48.98 | 〃 45年(1970年)7月1日 |
| 阪南 | 54,276 | 53,600 | 14(30) | 36.17 | 平成3年(1991年)10月1日 |
| 計 | 8,657,956 | 8,661,313 | 798 (1,244) | — | — |

- (注) 1 議員定数は令和2年(2020年)11月現在の条例定数、()内は旧法定数を記載
2 町村を含めた大阪府の人口(平成27.10.1国調)は8,839,469人